

今後の問題

今回の調査で、佐久のヤドリギ科2種の分布について、寄生する樹種や標高との関連などが、ほぼ明らかになったが、このような分布の実態と鳥類との関連などは全く調査していない。ホザキヤドリギの実を食べているヒレンジャクの群を3か所で見たことと、野鳥の研究者から、「ヤドリギの実を食べるのはヒヨドリ、ヒレンジャク、キレンジャクなどが多い、そのほかツグミ、ホオジロ、ムクドリなども食べるようだ。」という話を聞いたことだけである。

ヤドリギ科2種の分布と鳥との関連を考えると、次のような課題が出てくる。

- ・ケヤキの大木が何本も並んでいて、1本にたくさん寄生しているのに隣接する木には全く寄生していない。
- それは木の個体差によるのか、実を食べる鳥の行動によるものか。
- ・ホザキヤドリギは標高の高い地域には分布して

いない。文献等によれば主にミズナラに寄生するとされているが、佐久ではミズナラの分布する1,000m以上には、ほとんど分布していない。それは、種として生態的にみて生息できないのか、実を食べる鳥の種類や行動との関連の問題なのか。

- ・ホザキヤドリギが、近年増えているとしたら、それは、実を食べる鳥の種類と関係があるのか。
- ・ヤドリギとホザキヤドリギとの実を食べる鳥の種類は違うのかどうか。

以上のような問題が究明されれば、佐久のヤドリギ科2種の分布について、その起因するところも明らかになるように思われる。

参考文献

- 佐竹義輔他編1989 日本の野生植物 木本 I 平凡社
岡本省吾 昭, 34 原色日本樹木図鑑 保育社
平野弘二 1989 冬の樹木 保育社
馬場多久男 1984 冬芽でわかる落葉樹 信濃毎日

〔新刊紹介〕林一六著「植生地理学」A5判, 269頁。1990年3月発刊, 3,090円。大明堂。

本書は、大明堂の地理学講座の第5巻にあたる。著者が筑波大学の地理学専攻の学生に講義している植生地理学をまとめたものであり、教科書として刊行したとのことである。多分、日本の大学では、植生地理学という講義はほとんど行なわれていないと思われるが、このような授業が行なわれている大学の学生は幸せであるし、講義を開講している筑波大学に敬意を表したいが、またそれを講義することは大変である。我国ではまだ、本題を専門に学んだり研究する講座もないし、研究も端緒である。その理由は、歴史が有り、国際的研究が進んでいる植物地理学と異なり、歴史が若く、国際化がまだ進んでいないためである。国内では横浜学派などにより、植生地理学は飛躍的に進んだが、学問のテーマからも、地球全体を視野に入れた研究と体系が確立されなければならない。最近ようやく世界的レベルの研究が始まったばかりである。そのような中で、世界各地の現地調査の経験深い著者によって、本書が刊行されたことは、同学の発展にとってその端緒となるものである。若い学徒が基礎的な知識を本書で学び、さらに世界に目を開いていくことを期待したい。なお、本書の構成は、全7章のうち、多くの章に植物生態学の基礎知識が当てられており、それらを学ぶテキストにも活用できるし、世界の自然を知るにも手軽なテキストといえる。(K. T.)

国際蛇紋岩生態学会議に出席して

1991年の6月19日から22日まで、アメリカ合衆国カリフォルニア州デーヴィス市にあるカリフォルニア大学を会場に国際蛇紋岩生態学会議(The International Conference on Serpentine Ecology)が開かれ出席しましたので、ここにご報告いたします。

会議に先立って、18日の夜会議出席者の顔合わせがあり、カリフォルニア・ワインで乾杯しました。日本からこの会議に出席したのは、北海道の網走市にある東京農大農場劇場長の水野直治先生と私の二人だけで、結局アジア全体としても、我々二人だけでした。19日は、スタンフォード大学のコールマン(R. G. Coleman)教授の「蛇紋岩の地質学的進化」という特別講演でスタートし、続いて、ワシントン大学のクルックバーグ(A. R. Kruckeberg)名誉教授の「北米西部の蛇紋岩生物」という特別講演がありました。私は、21日の午後、アフリカ、アジアおよびオセアニアの蛇紋岩フローラという共通テーマの中の一つとして「日本の蛇紋岩植物：分布と分類」という題で話をしました。

最終日22日はカリフォルニア州の蛇紋岩地帯へのエクスカージョンがあり、州花であるケシ科のCalifornia poppy (*Eschscholzia californica*)の黄色い花、ユリ科のYellow Mariposa (*Calochortus luteus*)の淡黄色の花、リンドウ科のAlkali Centaury (*Centaureum trichanthum*)のピンクの花などが見事でした。(豊国秀夫)